

第3分科会

学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する学校事務を
～「守る・打つ・走る」 連携プレーでチームをつなぐ～



提 案 者 福山市立芦田中学校 池永 浩司
尾道市立長江小学校 皿田 稚子
司 会 者 廿日市市立宮内小学校 杉田 秀美
記 録 者 三次市立塩町中学校 森口 辰子
安芸高田市立来原小学校 林 貞行
助 言 者 広島大学大学院 教育学研究科
特任教授 林 孝
分科会責任者 尾道市立長江小学校 皿田 稚子

(参加人数 84名)

提案の概要

私たち事務職員は、「学校に勤務し、教育行政を担う」職員です。それは、教育的力量と行政的力量を併せもち、学校現場で子どもの豊かな育ちを支援する教育行政職員です。「つかさどる」職となり、これまで以上に事務職員が全体を見通し、学校のマネジメント力を高め、新たな経営資源の開発等も担っていく必要があります。さらには、共同事務室によってチームとしての力を向上させ、子どもの学びの質を高めていかなければなりません。

研究部では、平成30年度の研究テーマを『「守る・打つ・走る」 連携プレーでチームをつなぐ』として研究してきました。「連携プレーでチームをつなぐ」とはどういうことなのか具体的な事例をあげて提案しました。

討議の内容

提案を受け、課題を整理するため個人作業で「マンダラシート」を作成しました。その後、林先生による「課題解決の方法と焦点化」についてのミニ講義を受け、「課題解決ストラックアウト」を活用したグループワークを行いました。各グループから出た意見の中から次の2点を紹介します。

① 集金の適正化を目的として論議しました。

課題設定としては、未納対策と集金計画が甘く残金が生じる実態があり、「諸費会計事務の適正化」としました。

手立てとしては、年度当初に立てた購入計画を学期ごと・月ごとに修正を加えてもらい残金が生じないようにすること、購入計画に基づいたタイムスケジュール・会計マニュアルを作成し示すことで実態に応じた集金ができ、保護者負担の軽減・会計事務の適正化を図ることができると考えます。

② 読書活動を充実させる環境づくりを目的として論議しました。

動機としては、学校として読書活動の推進に取り組んでいるが、本や設備が古く、子どもがあまり利用していない実態があります。

手立てとしては、古い本を廃棄して新しい本を購入する、魅力的な環境を作るために、机、椅子、カーテン、壁等のリニューアルを図ることが考えられます。子どもや先生たちの希望をふまえ、連携して取り組む中で、読書活動の充実を図ることができると考えます。

まとめ

助言者の林孝先生より、まとめとして次のようにお話いただきました。

つかさどる事務職員像を考えた。企画提案をしていくことが重要である。求められれば提案するという受身の部分=「事務に従事する」から、求められなくても自分の職務に関するものについて提案する=「事務をつかさどる」という視点が非常に重要になってくる。課題に対して自己の責任と権限において判断してかかわることが大切になってくる。

総務財務の専門職として、教育活動を進めていくことが事務職員として学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援することにつながっている。事務職員は総務や財務に関する専門職である。その専門性は総務や財務に誰よりも長けているということ。常に学び続けて、専門性を伸ばし続けていかなければならない。「学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する」ここへ常に返っていくことが大切である。

事務職員の仕事はいろいろなものをつないでいる。つなぐことによって学校をより豊かにし、楽しくし、明るくするというかたちで仕事をしている。つかさどる肝になっていると思う。子どもとともにという視点で、これからも取り組んでほしい。